

ウェブログの運営方法と発展形態

2000MT082 榊原康広 2000MT091 高須和也

指導教員 青山幹雄

1. はじめに

現在、ウェブログ(Weblog)という形態の Web サイトが注目を集めている。しかしその運営方法や発展形態に関しては現段階ではあまり研究されていない。本研究では、これらの調査と考察を行うことを目的とし、以下の 3 つを研究課題とする。

- (1) 人々のウェブログに対する関心度を、既存のウェブログの評価、分析を行い、原因を調査する。
- (2) 実際にスタイルの異なるウェブログを複数作成し、運営することによって、その運営記録等を分析する。
- (3) ウェブログを運営する際、従来の Web サイトとの違いを明確にしながデータを分析して、ウェブログの発展形態を明らかにする。

2. ウェブログとは

2.1 ウェブログの定義

ウェブログ(略してブログ)は、Web を巡ったログという意味でウェブログと言う。ウェブログの代表的ツールである Blogger の開発者である Evan Williams は、「多様で幅広い性格をもつため、ブログの明確な定義を定めることは困難であるが、強いていえば、日づけ順に頻繁に更新され、特定の記事やウェブサイトへのリンクを掲載している特定のフォーマットである。」と定義している[3]。

2.2 ウェブログの種類

ウェブログのスタイルとして主にフィルタ、日記、コミュニティ、エッセイ・レポート、写真ブログ、企業ブログの 6 種類がある。その他に携帯電話などのモバイルツールから更新できるモブログというものもある[1]。

3. ウェブログを実現する技術

3.1 RSS(RDF Site Summary)

RSS は、サイトの概要をメタデータとして簡潔に記述する XML フォーマットである[2]。RDF(Resource Description Framework)は、マシンが処理可能な Web 上の知識を実現するための XML フォーマットである。Web サイトは RSS ファイルを公開することによって、他のサイトがそのウェブサイトの最新エントリのヘッドラインを表示できる。

3.2 ウェブログポータル

ウェブログの更新情報をまとめて提供するサイトに ping サイトが存在する。さらにその ping サイトを利用したウェブログだけを対象にした検索サービスサイトや分析サイトも存在している。作成したウェブログをより多くの人に見てもらうためにも、このようなウェブログポータルサイトに登録、ping を送信することが必要となる。代表的な ping サイトに Weblogs.com や Myblog japan などがある。

なお、更新情報を通知するときには XML-RPC が使われている。

3.3 トラックバック

トラックバックとは、独立しているサイト間をリンクするための仕組みで、HTML タグを使った通常のハイパーリンクとは異なり、リンク先からリンク元への逆リンクを実現する技術である。

3.4 コメント

ウェブログを訪れた人がエントリ(1 つ 1 つの記事)単位で意見や感想を書き込むことができる「コメント機能」を持つウェブログ作成ツールもある。

4. ウェブログの作成

4.1 作成の目的

ウェブログを実際に運営・管理していくことによって、ウェブログにどんな魅力があるか、どんな問題点があるか、今までの Web サイトと比較してどういった違いがあるかなどを調査すること。

4.2 作成方法

サーバインストール型ツールである Movable Type Version 2.63 をインストールしてウェブログを作成した。

4.3 作成したウェブログ

モブログと写真ブログの 2 つのウェブログを作成した。

4.3.1 モブログ

モブログを作成する上で Movable Type にはモブログに必要なメールでの投稿機能はないため、受け取ったメールを Movable Type に投稿するサービスである Moblog Mail Gateway を利用した。

モブログのタイトルは「raoh(自分のハンドルネーム)のモブログ日記」で、日記形式で運営した。カメラ付き携帯電話を活用し画像を添付して投稿していく。

図1は、トラックバックを受けたエントリである。それ以前に自分から積極的にトラックバックをしていた。図1で受けたトラックバックがその結果というわけではないが、自分がトラックバックをしたウェブログからコメントがあり、自分のメインページへのリンクも貼られていた。トラックバックは、ある1つのエントリからコミュニケーションをとりウェブログ全体の繋がりにまで発展する画期的な機能であると言っても過言ではない。

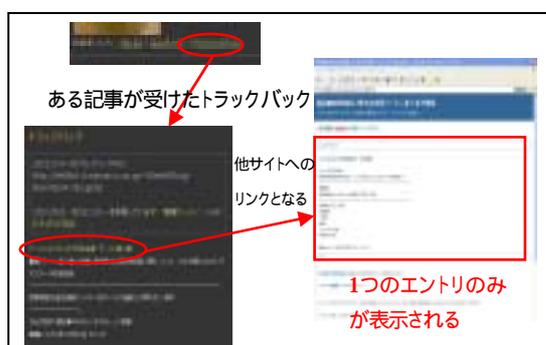


図1: トラックバック

4.3.2 写真ブログ

タイトルは「Summer Dream」で、デジタルカメラで撮影した夏をテーマにし、写真のサイズを小さくして公開している。また、アクセス解析、Blogrolling、RSS、コメント等の機能を搭載し、更新はおおよそ2日に1度のペースで行なっている。エントリ更新情報は、Weblogs.Com など、計4つのPingサイトに通知されるように設定した。また、blogdexなど多くのウェブログランキング、集約サイトに登録した。

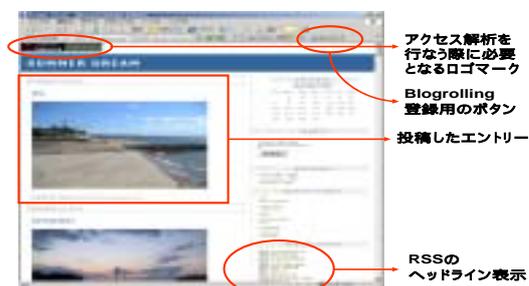


図2: 作成した写真ブログ Summer Dream

5. 従来のWebサイトとの相違分析

5.1 ネットワーク構造の違い

トラックバックによる繋がりが加わることによって、従来の

Webサイトとネットワーク構造上のような違いがあるのかを調査した。

5.1.1 評価方法

(1) リンク(トラックバックも含む)によるネットワーク構造

ランダムにウェブログではないWebサイトを複数選び被リンク数をカウントした。さらにリンク元のサイトも被リンク数をカウントし、被リンク数がどのように変化していくかを調査した。ウェブログもリンク元がウェブログである被リンク数をカウントし、同様に被リンク数の変化の様子を調査した。こうして従来のWebサイトとウェブログの被リンク状況を比較することによって評価した。なお、被リンク数をカウントする方法としては、従来のWebサイトはNAVER Japanリンクサーチ、ウェブログはTechnoratiのサイトを用いている[3][4]。

(2) トラックバックのみによるネットワーク構造

トラックバック数の多いウェブログのエントリからトラックバックしているエントリを辿り、トラックバックだけでどこまで他サイトに繋がるのかを調査することによって、ウェブログのネットワーク構造を評価した。

5.1.2 リンクによるネットワーク構造の分析

(1) ランダムに数サイト選んだ中での比較

まず、従来のWebサイトについて被リンク数が0でないサイトをランダムに10サイト選び、被リンク数の変化を調査した。各サイトのデータを比率に変換し、比較した。ウェブログも同様の方法で5サイトを選び調査した。

以上のデータから平均比率をとり比較した結果、図3のようになった。共に2回目の被リンク数調査で比率は大きく減少しているものの、従来のWebサイトは6リンク目以降、比率が0となってしまった。一方ウェブログは、2リンク目以降、増加減少を繰り返しながら0.02から0.05までをほぼ一定となった。

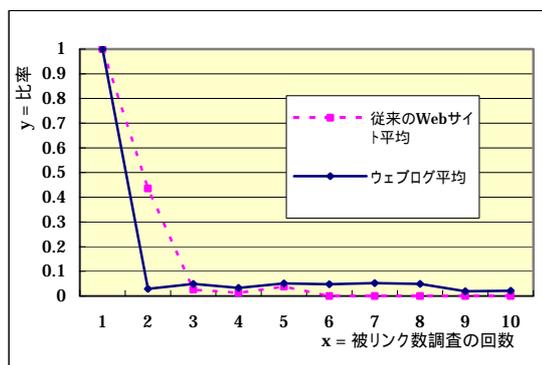


図3: 被リンク数の比率変化のグラフ

(2) 1サイト同士の比較

従来のWebサイトとウェブログで被リンク数の近いサイト

を1サイトずつ例として、比較した(従来のWebサイトの被リンク数は917、ウェブログは825)。その結果、ウェブログは(1)の場合とほぼ同じ結果となった。しかし、従来のWebサイトは917あった被リンク数が2回目の調査で一気に1にまで減少し4リンク目までで被リンクサイトは0となった。

5.1.3 トラックバックのみによるネットワーク構造

BLOGROLLING.COMのサイトのウェブログ人気ランキングの上位50のウェブログサイトのトラックバック状況を調査した。調査した50サイトのウェブログのうち20サイト(40%)にトラックバックの機能が付いていた。この20サイトのウェブログ(海外のサイト)のトラックバックのネットワーク構造を調べたところ、図5-2のようになった。

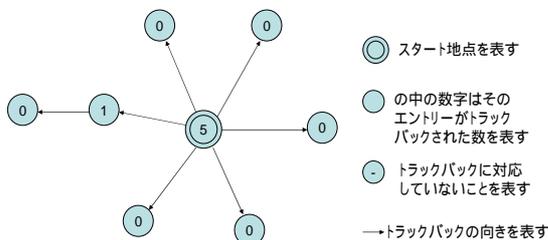


図4: トラックバックによるネットワーク構造1

調査したサイトのほとんどが図4と似た構造となっており、ネットワークの深さも最大で2段階までしか繋がっておらず、単純な形のネットワーク構造となっていた。ところがトラックバックによる繋がりが深いサイトを発見できた。dh's memoranda という日本のウェブログサイトである。このサイトのトラックバックによるネットワーク構造を図5に示す。

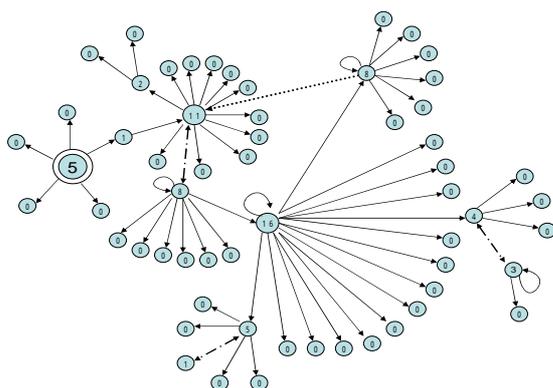


図5: トラックバックによるネットワーク構造2

dh's memoranda のサイトを起点としたトラックバックによる小規模なネットワークが形成されていることがわかる。しかも、ほとんどのサイトが「Six Apart」というウェブログのツールに関する会議についての話題を扱っていた。

5.1.4 解析結果

(1) リンクによるネットワーク構造の解析結果

従来のWebサイトは、最初の被リンク数が多いサイトでも、そのリンク元の被リンク数は0に近いサイトばかりであることが判明した。それは、リンク元がサイトのトップページでないことが原因と考えられる。

逆にウェブログにおいては、サイドバーにもエントリ内にもふんだんにリンクが貼られていることから、被リンク数がランダムに増加減少を繰り返していると考えられる。

以上の結果から、図6のグラフに、従来のWebサイト全体の被リンク数の比率変化と、同様ウェブログ全体の比率変化を導いた。

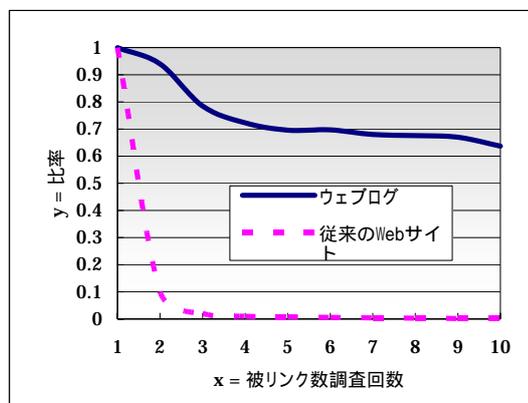


図6: 従来のWebサイト全体とウェブログ全体の被リンク数の比率変化

(2) トラックバックのみによるネットワーク構造の解析結果

トラックバックのほとんどは、ネットワーク構造が単純で繋がりが浅いものとなっている。しかし、ウェブログツールのような、多くの人が興味を持つ内容について取り扱っているdh's memoranda というウェブログサイトでは、トラックバックによる深いネットワークが形成されていた。このことから、多くの人にとって興味のある話題のサイトは、トラックバックによって繋がりの深いネットワークを形成することが可能だということが証明されたと言える。

5.2 アクセス解析によるウェブログの特性

5.2.1 評価方法

アクセス解析から得られる情報の中から特にリンク元サイトに着目してウェブログに対するアクセス解析を行い、従来のWebサイトとの相違点を導き出す。

5.2.2 解析結果

作成した2つのウェブログサイトと、従来のWebサイトとの、総アクセス数のうち検索エンジンが占める割合を比較したグラフを図7に示す。

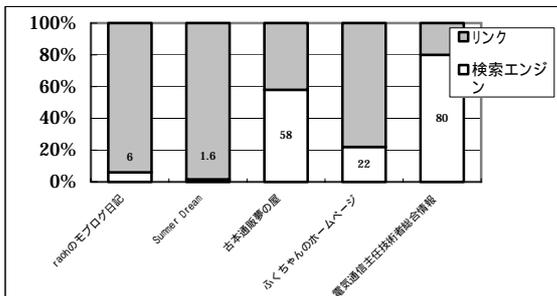


図7: 検索エンジンが占める割合

この作成したウェブログ(左の2つ)と、ウェブログ以外のWebサイト(右の3つ)を比較したところ、2つのウェブログサイトの検索エンジンによるアクセス数が著しく少ないという相違があった。この調査結果によりウェブログは検索エンジンに依存する必要性がないこと、リンクによる繋がりが深いことが判明した。

6. 考察

6.1 ウェブログコンテンツの社会性

多くのコメントやトラックバックを受けているエントリが載っているウェブログを人気のあるウェブログとするならば、その多くは社会的なウェブログであると言える。それは、個人的な内容のエントリばかりを投稿しているウェブログ、すなわち日記サイトのように運営しているウェブログとは異なるものである。個人的な内容のサイトであれば、その人の身近な人は頻りにアクセスするかもしれないが、その人を知らない人にとっては全く興味を抱くものではないのである。

また、現在ではトラックバックが何か分からない人が多い。ウェブログを運営している人でなければトラックバックをすることは不可能ではあるが、ウェブログユーザを増加させるにはそのような技術的側面から先に認知させていくことが必要であると考えられる。

6.2 モブログの運営について

今回はモブログを個人の日記サイトとして運営した。運営を続けてみると、PCのキーボードに比べて文字入力に手間がかかるため、特に長い文章を入力したい時に不便であることがわかった。

また、モブログの更新を行うことにより携帯電話の1ヶ月あたりの通信料が普段の約1.5倍かかっていた。

モブログはいつでもどこでも更新できることが利点ではあるが、携帯電話の操作に手間がかかることや、毎日の写真日記のために頻りに更新しながら運営するのは、金銭的にも問題があると考えられる。

6.3 写真ブログの運営について

数種類のウェブログを作成してみたが、その中でも今回写真ブログであるSummer Dreamを中心に運営を行ってみようと考えた理由は、最も管理者にとって興味のある内容だったからである。作成した特に興味のない話題に関するウェブログサイトは、今ではすっかり更新されなくなっている。しかし、Summer Dreamの場合、公開する写真は全て地元で管理者自身が撮ったもので、伝える情報が管理者の身近なものであるため更新する作業が苦痛ではなかった。

多くのウェブログサイトを見ると、更新が止まっているサイトも数多く存在する。そのような事態を防ぐためには伝えるべき情報の内容をよく考えてから公開するべきである。

6.4 従来のWebサイトとの比較

5章の解析結果から、ウェブログは従来のWebサイトと比較してネットワークの繋がりが深く、リンクに依存する傾向が強いことが明らかになった。ただし、作成したSummer Dream, raohのモブログ日記どちらも登録したウェブログ集約サイトやランキングサイトによるアクセスに依存する傾向が強く、個人のウェブログとの繋がりを深めることができなかったことは今後の課題として残っている。

7. まとめ

ウェブログの認知度は徐々に高まっているが、まだ一般レベルまでは普及していない。しかし、便利なツールの登場、RSSやトラックバックなどの魅力的な技術の登場などに裏付けられて大きな将来性を持っていることは間違いない。反面、まだ多くの課題や問題点は残っている。

ウェブログにはスタイルらしきスタイルは存在するが、その活用法は様々であるため、ウェブログを一言で定義することは困難である。しかし、本研究からあえてウェブログを一言で定義するならば、ウェブログとは、「かつてない繋がりを容易に形成させることのできる新しいWebスタイルである」となる。

参考文献

- [1] 田口和裕ほか: BloggerとMovable Typeではじめるウェブログ入門 (2003. 7).
- [2] The Web KANZAKI - Japan, music and computer, <http://www.kanzaki.com/>
- [3] NAVER Japan - リンクサーチ -, <http://linksearch.naver.co.jp/>
- [4] Technorati: Web Sevices for bloggers, <http://www.technorati.com/>